

大会日程と会場一覧

【7月7日（金） エクスカーション「平和の塔」見学ツアー（有料、事前申込）】

時間	プログラム		場所
15:30	集合①	宮崎空港到着口の前に15:30までに集合	宮崎空港
16:00	集合②	宮崎公立大学正門前に16:00までに集合	公立大
16:30～ 17:30	「平和の塔」見学	「八紘之基柱」として1940年に建てられ、戦後は「平和の塔」となったモニュメントとその内部を見学	平和台 公園
18:30	解散	解散後、宮崎市中心部の宿泊先へ送迎も可能	公立大

【7月8日（土） 自由論題Ⅰ、常任理事会・理事会、共通論題Ⅰ、公開シンポジウム、情報交換会】

時間	プログラム		場所
9:00～	受付		食堂前
10:00～ 12:00	自由論題A メディアと想像の共同体の現在・過去・未来 司会：齋川 貴嗣 （高崎経済大学講師）	目黒 志帆美（東北大学大学院国際文化研究科フェロー） ハワイ王国で醸成されるアメリカ人の「自国認識」—マーク・トウェインの『ハワイ通信』を中心に	101 大講義室
		中川 拓哉（名古屋大学大学院文学研究科博士候補研究員） 輸出される「日本」—1930年代後半の「国際映画」をめぐる問題	
		白石 さや（岡崎女子大学子ども教育学部教授） THE RIGHT START：コンピュータ世代の未来観と幼児教育論	
	自由論題B グローバル化のなかのツーリズムとメディアイベント 司会：加藤 恵美 （早稲田大学非常勤講師）	中村 幸子（愛知学院大学文学部教授） 地域と世界を繋ぐ地域創生プロジェクト～犬山城城下町への外国人観光客誘致強化を目的としたフィールドワークを中心に～	102 大講義室
		坂口 可奈（早稲田大学政治経済学部助手） シンガポールのネイション・ブランディング	
		瀬川 澄佳（成蹊大学卒業生） ロンドンオリンピック開会式—パブリック・ディプロマシーの可能性	
	自由論題C 植民地主義と東アジア世界 司会：山脇 千賀子 （文教大学教授）	照屋 理（名桜大学国際学群上級准教授） 日本統治期台湾における沖縄県系人の諸相—『台湾日日新報』記事を手掛かりに—	103 大講義室
		菅野 敦志（名桜大学国際学群上級准教授） 戦後の沖縄と台湾における「方言札」—米軍政下と国民党統治下の比較—	
		崔 紗華（早稲田大学グローバルエデュケーションセンター助手） 朝鮮人学校の再編—1950年代『雪どけ』を背景に—	
		大和 裕美子（九州共立大学経済学部講師） 日帝強制動員歴史館にみる日本人市民の記憶運動	

12:00～	昼食・お弁当引渡し 13:30 まで		食堂前
12:10～ 13:20	常任理事会・理事会		視聴覚室 (4階)
13:30～ 15:00	共通論題① 「結婚をめぐる生きづらさ」を『生きづらさ学』的に分析してみる—生きづらさ学における「評価モデル」確立の試み— 司会：相原 征代 (岐阜大学男女共同参画推進室特任助教)	相原 征代 (岐阜大学男女共同参画推進室特任助教) 授業プログラム実践報告—「アラフォー独身男性」の学生のみかた	101 大講義室
吉岡 剛彦 (佐賀大学教育学部教授) 法律から見た生きづらさの処方箋			
大崎 友記子 (岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻教授) 住居学から見た生きづらさの処方箋			
小山 真紀 (岐阜大学流域圏科学研究センター准教授) 防災から見た生きづらさの処方箋			
船越 高樹 (岐阜大学教育推進・学生支援機構サポートルーム特任助教) 障害学生支援から見た生きづらさの処方箋			
共通論題② 日米知的交流における戦前・戦後の断続 司会：高光 佳絵 (千葉大学国際教養学部准教授)	飯森 明子 (常磐大学国際学部非常勤講師) 小松隆関係文書に見る日米交流の戦前・戦後の断続	102 大講義室	
	中嶋 啓雄 (大阪大学大学院国際公共政策研究科教授) アメリカ研究者と日米知的交流		
	高光 佳絵 (千葉大学国際教養学部准教授) 国際文化会館をめぐる戦後日米関係		
共通論題③ 故郷を求めて・故郷を世界へ—近代台湾と日本・日本人— 司会：井竿 富雄 (山口県立大学国際文化学部教授)	邱 函妮 (台湾・中央研究院歴史語言研究所博士研究員) 日本統治期台湾における「美術」制度と台湾人画家——陳澄波を例として	103 大講義室	
	吉永 敦征 (山口県立大学国際文化学部准教授) 陳澄波が学んだ日本と西洋思想——残されたノートを読む		
	安溪 遊地 (山口県立大学特別補佐) 台湾留用日本人の見た 2・28 事件——同人『回覧雑誌』と國分直一フィールドノートの対比から		
15:15～ 17:30	公開シンポジウム 基調講演 パネル・ディスカッション	<1940年>を起点に考える<2020年>の越え方 ケネス ルオフ (ポートランド州立大学教授) 「宮崎、日本、アジア大陸：1940年と2020年」 (仮題) パネリスト：ケネス ルオフ 乗松 優 (関東学院大学兼任講師) 「ボクシング東洋選手権と未完のプロジェクトとしての『帝国日本』」 渡邊 英理 (静岡大学准教授) 「宮崎の沖縄奄美タウン、波島と公共性」 討論者：若林 一平 (文教大学名誉教授) 司会：倉 真一 (宮崎公立大学准教授)	講堂

17:45～	情報交換会会場への送迎（無料）	講堂前
18:30～ 20:00	情報交換会	ホテル メリージュ

【7月9日（日） 自由論題Ⅱ、総会その他、フォーラム、共通論題Ⅱ】

時間	プログラム		場所
8:00～	受付		食堂前
9:00～ 11:00	自由論題D 国際主義と人道主義 司会：萩原 稔 (大東文化大学教授)	山内 晴子(朝河貫一研究会理事 (PhD 早稲田大学)) 朝河貫一と「日本イェール協会コレクション」 メソロピャン メリネ (東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程) 19-20 世紀の難民問題におけるアルメニア人難民とダイアナ・アプカーの人道的活動 鈴村 裕輔 (法政大学国際日本学研究所客員学術研究員) 外国版『東洋経済新報』の創刊の経緯と石橋湛山 小阪 裕城 (長野県短期大学助教) 国際機構に請願する権利 —その世界人権宣言からの脱落過程の検討—	101 大講義室
	自由論題E 海の境界と越境が生み出す社会 司会：上原 良子 (フェリス女学院大学教授)	天野 尚樹 (山形大学人文社会科学部准教授) 砦かゲートウェイか？—日本の島嶼から考える (1) ボーダーとしての宗谷海峡：「くにざかい」から「国境」へ 花松 泰倫 (九州大学持続可能な社会のための決断科学センター講師) 砦かゲートウェイか？—日本の島嶼から考える (2) 対馬・釜山ボーダーツーリズムの展開と境域社会の変容過程 吉川 純恵 (早稲田大学現代中国研究所招聘研究員) 中国の海洋経済政策と地方政府	102 大講義室
	自由論題F 国際文化研究とナショナリズムへの視座 司会：川村 陶子 (成蹊大学教授)	葉柳 和則 (長崎大学多文化社会学部教授) テクストとしての「文化教書」(1938)—ナチス時代のスイスにおける「精神的国土防衛」運動の理路— 半田 幸子 (東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程) ナチスドイツ占領下前後のチェコにおけるミレナ・イエセンスカの民族観 —ナショナリズムとナチズムへの抵抗に焦点を当てて— 馬場 孝 (静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科教授) アーネスト・ゲルナーの思想・哲学—その全体像と国際文化研究への含意 大形 利之 (東海大学国際文化学部国際コミュニケーション学科教授) IS (イスラミック・ステート) とインドネシアでのテロ行動への影響に関する一考察	103 大講義室

9:00～ 11:00	自由論題G 民衆の生活世界と NPO 司会：牧田 東一 (桜美林大学教授)	田中 佑実 (佐賀大学大学院地域デザイン研究科美術史・美術理論選修) フィンランドのキャスパイッカ Käspaikka—樹木のモチーフに聖樹の面影を見る— 井出 晃憲 (文教大学湘南総合研究所客員研究員) 住民とNPOの協同的実践によって文化を紡ぐ～企画展「岩に刻まれた古代美術アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン」の成功まで～ 秋保 さやか (筑波大学助教) 自律と依存の狭間で生きるクメール農民—カンボジア農村における支援の場に着目して—	201 中講義室
11:00～	昼食・お弁当引渡し 13:30 まで		食堂前
11:10～ 12:50	総会その他	総会 第7回平野健一郎賞表彰式、 文化交流創成コーディネーター資格表彰 合格証授与 ベスト・プレゼン賞学生発表	103 大講義室
13:00～ 14:30	フォーラム	「諸外国における『インターカルチュラル』へのアプローチ—加・英・独・ユネスコにみる理論と実践からの示唆」 報告者：飯笹 佐代子 (青山学院大学)、渡辺 愛子 (早稲田大学)、川村 陶子 (成蹊大学)、坂井 一成 (神戸大学) モデレーター：岡 眞理子 (帝京大学)	103 大講義室
14:45～ 16:15	共通論題④ 「国」を意識するとき—文化的越境性から考える伝統、民族、経済— 司会：高橋 梓 (近畿大学特任講師)	岡野 薫 (沖縄国際大学講師) 「閉ざされた国」という理想—エンゲルベルト・ケンプファー「鎖国論」(1712)における「グローバリズム」批判— 朝立 康太郎 (西南学院大学准教授) 自由化と民主化を巡る動揺—19世紀前半のアメリカ合衆国における南部知識人の思想— 高橋 梓 (近畿大学特任講師) 堀辰雄の日本文化傾倒期におけるマルセル・ブルースト受容 李 敬淑 (宮城学院女子大学准教授) <民族>として想像された女優—植民地朝鮮における<李香蘭表象>の受容—	101 大講義室
	共通論題⑤ 地域社会からみた「2020年」の越え方—ジェンダー・地方分権・オリンピック— 司会：梅津 顕一郎 (宮崎公立大学人文学部准教授)	四方 由美 (宮崎公立大学人文学部教授) 202030 女性活躍の可能性と課題 有馬 晋作 (宮崎公立大学学長) 戦前における地方分権のルーツ 梅津 顕一郎 (宮崎公立大学人文学部准教授) オリンピック報道に見る巨大文化イベントへの国家主義的まなざしの解体	102 大講義室

14:45～ 16:15	共通論題⑥ 国際文化学の視点から考えるグローバル人材育成の新たな方法論 司会：齊藤 理 (山口県立大学教授)	齊藤 理 (山口県立大学教授) 世界と地域の繋ぎ手になる『媒介』探し演習 加藤 恵美 (早稲田大学非常勤講師) 朝鮮学校を調査対象とした大学生の演習手法とその展開可能性 菅野 敦志 (名桜大学上級准教授) 沖縄から発信する東アジア海外実習—地域間・文化間を跨ぐ試み 岩野 雅子 (山口県立大学教授) カザフスタンにおける言語教育の転換と文化理解の変容	103 大講義室
16:30～	JR 宮崎駅および宮崎空港への送迎 (無料)		管理棟前